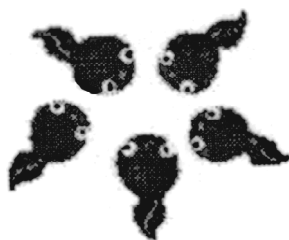


ニューズレター 2011 年度第3号

日本音楽表現学会 2012年3月31日発行

【巻頭言】 日本人の Rhythm 観？ 土門 裕之	p. 2
2012-2013 年度会長・理事選挙結果報告 坂東 肇	p. 3
日本音楽表現学会第10回 (Blue Valley) 大会のご案内 藤原 嘉文	p. 3
実行委員会組織、大会日程、プログラムの概要と発表者氏名		
懇親会、宿泊案内、参加費、参加申込、送金先、申込〆切、アクセス		
【随想】 箱館・啄木 佐々木 茂	p. 6
【随想】 パードレ・ダル・フィオールの思い出 原田 博之	p. 7
新入会員紹介	p. 8
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	p. 9
会員による CD リリース	p.12
会員による新刊	p.12
『音楽表現学』 Vol.10 原稿募集 伊野 義博	p.13
「研究サロン」 アイデア募集中	p.13
日本学術振興会「育志賞」の推薦について	p.13
書籍等青空市場	p.14
事務局からの重要なお願い	p.15
年会費の納入について		
住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届けください！		
事務局からのお知らせ	p.15
ニューズレターへの投稿		
学会の会員サポート制度をご活用下さい。		
会費納入について		
『音楽表現学』バックナンバー購入方法		
【重要】 学会 URL アドレスの変更	p.16
【各種書式】	p.16
2011 年度役員	p.16
編集後記	p.16

日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒520-0862 大阪市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

URL: <http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

郵便振込口座：01370=6=78225 加入者名：日本音楽表現学会

日本人の Rhythm 観？

土門 裕之（作曲／編集担当理事）

職業柄？色々な音楽団体から指導を頼まれることがあります。合唱コンクールに臨む中学生、高等学校の吹奏楽部、アマチュアオーケストラ、時には幼稚園での器楽指導など様々ですが、初めて出会った方々に音楽用語の解釈について話をすると例外なく「えっ？そうなの？」と驚かれるのです。その最たるものは Rhythm です。

思い起こせば、私が中学生だった遠い昔、音楽の試験で簡易な音楽用語について出題されたことがあります。幼少から楽器に触れることができた私は、外国で学んだことのある先生からの入れ知恵（指導）、そしてクーパー＆メイヤーの『リズムとテンポ』を読んでラテン語やギリシャ語に遡る言葉の起源に興味津々としていた変わり者だったので、意気揚々と一般的？な中学生の回答を逸脱する解釈で答えたところ、解答用紙には大きな×が付けられてきました。当時の先生曰く、「リズムとは規則正しいもの」とのこと。確かに今でも良く耳にするのは生活のリズムを守ることで心身ともに健康に～・・・。勇気を振り絞って反論しましたが先生も譲らず・・・、不思議なもので、釈然としない出来事のおかげでその時の記憶は鮮明に残り、『リズムとテンポ』を読み返す度に遠い昔の出来事を懐かしく思い出します。

留学先でも同じようなことがありました。先生曰く、「日本人は Rhythm という言葉の意味を誤解してるんだよね。どうしてだろう？」。忘れかけていた「リズム事件」の記憶が再燃し、中学時代の出来事をたどたどしい英語で話したところ、一同大爆笑！かと思えば何と、リズムの概念がそれぞれあやふやであることが判明しました。先生は熱くなり、何とクーパー＆メイヤーの『リズムとテンポ』を持ち出し、リズムとは何か？ビート、パルス、テンポとは何かを改めて整理し直すことになりました。中学時代の先生とは違う・・・、良かった～。何とも悲しい表現ですが、満ち足りた安堵感とともに楽しい議論の時間が過ぎていきました。

規則正しい音の時間的進行は、例えば横断歩道で聞こえる「とおりゃんせ」のメロディーであり、携帯電話のアラーム音のようなもの。リオのカーニバルでみられる躍動感に満ちた動き、同じような繰り返しにみえても決して同じ動きではないその時々には生み出される新たな表現、メトロノームが刻むパルスとは決して一致しない微妙なニュアンスによる揺れの中にこそ、豊かに生み出されている「リズム」があると私は思うのです。

そんな体験を重ねた私の授業においては、リズムという言葉の解釈はとても重要です。当然、熱が入ります。ある時、一人の学生が言いました。「先生のリズムへのこだわり・・・ややかしい・・・」。

みなさま、どうか Largo な心で素敵なリズムを生み出して下さいませ。Con anima!



ドローネー：「終わりのないリズム」
“Rhythme sans fin” 1934

2012-2013 年度会長・理事選挙結果報告

2011 年度選挙管理委員会

2011 年度選挙管理委員会では、2012-2013 年度会長・理事選挙の開票を 2012 年 3 月 25 日（日）に神戸大学発達科学部音楽棟において行いました。その結果をここに報告いたします。

2011 年度選挙管理委員会

委員長 坂東 肇

委員 中 磯子

” 井上 朋子

記

1. 投票者総数： 188 票	役 職	氏 名
2. 有効投票数： 187 票	会 長	安藤 政輝
3. 無 効 票： 1 票	理 事	奥 忍
4. 当選者：右の表の通り。	”	北山 敦康
	”	後藤 丹
	”	小畑 郁男
	”	杉江 淑子
	”	吉永 誠吾

日本音楽表現学会第 10 回（Blue Valley）大会のご案内

期日：2012 年 6 月 23 日（土）～ 24 日（日）

会場：山梨大学甲府キャンパス（甲府市武田 4-4-37）

東京から 1 時間少し。いくつものトンネルを抜けて目の前が開けると、そこが甲府盆地。都会の喧噪を離れ、ちょっとした旅行気分にあひたれます。太宰治『富嶽百景』で「富士には、月見草がよく似合ふ。」と書かれた裏富士、さらに南アルプスや八ヶ岳など、山に囲まれた風光明媚な山梨県。その中心地「甲府駅」から徒歩 15 分にある山梨大学で、記念すべき第 10 回大会を開催させていただく事になりました。さあ、ワイン・温泉・フルーツ王国「山梨」にご参集下さい。皆さんにお会いできるのを、実行委員一同お待ちしております。

（大会実行委員長 藤原嘉文）

第 10 回大会は Blue Valley の愛称通り、美しい溪谷を登る中、あっという間に甲府に着いてしまいました。実行委員会との打ち合わせを兼ねて下見に行ったのは 2 月、教室の窓からは白い雪を頂いた富士山が見えます。6 月にはこの山はどんな表情を見せてくれるのでしょうか。大学で生産されたワインも大会に色を添えてくれることでしょうか。

研究発表も昨年にも増して多彩になってきました。音楽を語り、表現を深めるこの学会、Blue Valley 大会であなたはどんな収穫を得られるのでしょうか。

（会長 奥 忍）

1) 大会実行委員会組織（2012 年 3 月 31 日現在）（敬称略）：

実行委員長：藤原 嘉文

事務局長：酒匂 淳

実行委員：手塚 実 小島 千か 大内 邦靖 山本 雅一 鈴木ひとみ 小俣 広弥

2) 全体日程と会場：

23日(土)												
	12:20	13:00	13:20	14:05	14:10	15:40	16:00	17:00	17:10	18:40	19:30	21:30
理事会・編集委員会 実行委員会等	受付 Y号館 ロビー	開会式	基調講演	シンポジウム			総会	分科会ⅠA,B,C,D,E,F	移動	懇親会	談露館	
M12室										各分科会場		
24日(日)												
	9:00	9:15	10:45	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45	17:00	18:30	
受付 Y号館 ロビー	分科会Ⅱ A,B,C,D,E	分科会Ⅲ A,B,C,D,E			昼食 * サロントイム	分科会Ⅳ A,B,C,D,E	分科会Ⅴ A,B,C,D,E	閉会	実行委員会 新理事会			
各分科会場		各分科会場			各分科会場		各分科会場					

3) プログラム概要と発表者等氏名(敬称略)：

(1)	オープニング	山梨音楽家有志による木管、金管、打楽器アンサンブル
(2)	基調講演	「“らしさ”と音楽表現」 大場俊一(ピアニスト/埼玉大学名誉教授)
(3)	シンポジウム	「演奏者にとっての“らしさ”とは」安田 香、加藤晴子、吉田治人、大場俊一
(4)	学会企画 統一テーマワークショップ	・ダンスの表現理念と技法 石場惇史 ・震災と音楽表現 佐々木正利、他
(5)	ワークショップ	阿方 俊、河本洋一
(6)	デモンストレーション	近藤晶子
(7)	共同研究	小畑郁男・佐野仁美、荒川恵子・豊田典子・豊田秀雄・岡林典子・内田博史
(8)	研究発表	阿部亮太郎、大竹紀子、岡部裕美、小川容子・嶋田由美、奥 忍、加藤晴子・加藤内藏進、桂 博章、北山敦康、小島千か、小森光紗、董 芳勝、香曾我部琢、今由佳里、齊藤 武、澤田まゆみ、篠原盛慶、酒井勇也、篠原真紀子、新山王政和、菅野雅紀、鈴木慎一朗、曾田裕司、田中拓未、田中宏明、谷村宏子・門脇早穂子、高久新吾、竹下可奈子、寺内大輔、中村隆夫、西脇 郁乃、丹羽亜希子、藤原嘉文、宮本賢二郎、村尾忠廣、村岡哲至、安田 香、吉澤恭子、吉野秀幸、鷲野彰子
(9)	総会	資料は当日配布します。
(10)	懇親会	談露館

4) 懇親会：談露館

創業は明治20年(1887年)。有栖川宮、伊藤博文等歴代の政治家、多くの著名な画家や書家・文筆家の逗留の場として発展、現在では甲府を代表するシティホテルです。優雅なロビーを通り抜け、談露館のおもてなしの心を受けて、会員相互の懇親の輪もまた広がることでしょう。

5) 宿泊案内：甲府は学会開催の多い町です。予約は安全を期してお早目にどうぞ。

A 駅周辺

- (1) ホテル談露館 <http://www.danrokan.co.jp/> 甲府駅南口徒歩約8分 (甲府市内温泉) TEL 055-237-1331
- (2) アーバンヴィラ古名屋ホテル <http://www.konaya.co.jp/> 甲府駅南口徒歩約9分 (甲府市内温泉) TEL 055-235-1122
- (3) PRIVATESTAY HOTEL たちばな <http://www.privatestay-tachibana.jp/> 甲府駅南口徒歩約2分 TEL 055-236-5511
- (4) 東横イン甲府駅前 <http://toyoko-inn.com/hotel/00132/hotelinfo.html> 甲府駅南口徒歩約2分 TEL 055-223-1045
- (5) 東横イン甲府舞鶴城公園 <http://toyoko-inn.com/hotel/00072/hotelinfo.html> 甲府駅南口徒歩約8分 TEL 055-226-1045
- (6) 甲府ワシントンホテルプラザ <http://kofu.washington.jp/index.html> 甲府駅南口徒歩13分 TEL 055-232-0410
- (7) ドーミーイン甲府 <http://www.hotespa.net/hotels/kofu/> 甲府駅南口徒歩約13分 TEL 055-226-5489

B 湯村温泉

- (1) 甲府富士屋ホテル <http://www.kofufujiya.jp/> 甲府駅南口よりバス3番のりば乗車約13分湯村温泉入り口
甲府駅北口よりタクシーで約8分 TEL 055-253-8111
- (2) 湯村ホテル B&B <http://www.yumura-hotel.com/> 甲府駅南口よりバス3番のりば乗約13分湯村温泉入り口
甲府駅北口よりタクシーで約8分 TEL 055-254-1111

C. 積翠寺温泉

(1) 要害 甲府駅よりバス、タクシーで約 20 分（甲府駅から大学を通り越した北です。）

<http://www.yougai.co.jp/> TEL 055-253-2611 送迎あり

6) 参加費：「参加申込書」に記載。

7) 参加申込：以下の書式に必要事項と（✓）をご記入の上、事務局にお送りください。

第 10 回 Blue Valley 大会参加申込書					
ご氏名：					
連絡先：〒					
E-mail					
参加費：学会員		5,000 円			
当日会員	1日につき	3,000 円	参加希望日	() 23 日 () 24 日
学部学生	1日につき	2,000 円	参加希望日	() 23 日 () 24 日
懇親会費：		6,000 円			
24 日の弁当（お茶付）：		800 円			
合 計：		_____ 円			

8) 送金先：会員には5月中旬発行予定の『大会要項』に郵便振替票を同封しますので、それをお使いください。

学会員以外の方はまず事務局に参加をお申し込み下さい。『大会要項』とともに振替票を送ります。

9) 申込み〆切：2012年6月10日（日）

10) アクセス

新宿駅→甲府駅

①電車：JR 中央線 特急「あずさ号」または「かいじ号」で最速 83 分

②バス：新宿駅西口高速バスターミナルより約 130 分

名古屋駅→甲府駅

①電車：JR 中央線（塩尻駅経由）／塩尻駅で特急「しなの」から
特急「あずさ」に乗り換え、最短 181 分

②バス：JR 名古屋駅前バスセンターより約 240 分

静岡駅→甲府駅

電車：JR 特急「ふじかわ号」で最短 133 分

甲府駅→甲府キャンパス

①バス：甲府駅北口 2 番バス停乗り場より「武田神社」または
「積翠寺」行き約 5 分、「山梨大学」下車

②徒歩：甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約 15 分

③タクシー：1 メーター



箱館・啄木

佐々木 茂 (作曲)

知人のリサイタルのために石川啄木「一握の砂」一忘れがたき人々より5首を選び作曲した。井上ひさし氏が「日本史の上で5指に入る日本語の言葉の使い手」と評するように、「人の感情の表し方がうまい」。「瞬間的な人間くさい感銘」が圧ふのである。

ここが同時代人、北原白秋の和歌や詩の精神とは違う。啄木は白秋のひとつ年長である。

作曲しながら、ふと頭をよぎったことがあった。啄木が詩を朗読するとき、どんな抑揚とリズムがついていたのだろうか。だいぶ以前になるが、NHKテレビで北原白秋の自作の朗読を偶然耳(目)にしたことがある。山田耕筰が曲をつけた「からたちの花」が祝詞のりとのように朗読され、「こぶし」もついていたように記憶している。トーキーなので大正末期から昭和初期の映像と思われるが、口語体の近代詩に抱くイメージとの乖離にとにかく驚いた。識者によれば啄木は森鷗外の主催する歌会(歌を詠みあい採点する)に白秋らと顔を出し、自身の詩を披露していたという。

横道になるが、中村理平氏の研究によると最初の日本語(翻訳)聖歌は箱館のハリストス正教会で歌われ、それを直接聞いた人の記録には「日本の謡曲の節が七分に義太夫が二分、あとの一分が端唄のような節で、何とも形容のできない面白い節回しなので、参拝の露西亜人がその場にいたたまらず抜け出した」とある。明治4年の洋楽事初めとしてうなづける話である。白秋に見たように半世紀を経てもなお、一度しみ付いた音感覚が容易にぬけることなどあり得ないことも事実であろう。

君に似し 姿を街に見る時の
こころ躍りを あはれと思え(啄木)

西洋かぶれのハイカラ青年、啄木はこの詩を一体どのように朗読したのであろうか聴いてみたい。
今年(2024年)は啄木・没後100年。



パードレ・ダル・フィオールの思い出

—うたうことを極めた音楽教育家—

原田 博之（声楽・音楽教育）



声楽をご専門とする方なら、彼の名を一度は耳にしたことがあるかもしれません。1991年12月のこと、声楽専攻2年生であった筆者は、パードレ（カトリックの神父の意）・

ダル・フィオールと初めて出会いました。彼が何も無い地から鍬を手に開墾しつくりあげた、目黒サレジオ教会の一面に建つ、碑文谷幼稚園です。教室に並ぶ園児の小さな椅子に腰掛けた感触が、今でも鮮明に思い起こされます。

既に70代を迎えた彼のもとに通っていたのは、声楽愛好家から専門家まで、年齢も10代から70代までと様々で、名古屋や新潟など遠方から訪れる方もありました。ゆったりとした時間の中で展開される指導は非常にユニークです。教室にある園児のボールやぬいぐるみを使い、声を「つくって歌う」ことからいかに解放させるかが目指されました。そしてそれが達成された瞬間、受講生は自らが歌っていることを忘れ、歌声は、それまでと全く次元の異なる響きを獲得していったのです。

彼はカトリックの神父でしたが、オペラ歌手ディーナ・ノタルジャコモの通訳を務め、彼女に声楽を師事しました。そして天性で歌っていた発声を改め、ベル・カント唱法の伝統の上に立ち、人が歌う行為そのものについて極めていきました。

自らの声を豊かにすることに注力していた当時の筆者が、彼の指導の果たす意味に気づき始めるまでには、優に1年を要しました。歌うことに悩む者たちが、生き生きとした歌声に生まれ変わっていく姿を目の当たりにしつつも、その価値をすぐには理解できなかったのです。そして自らも受講する中で、歌唱時につきものであった苦しさは消え去り、自らの歌の世界が広がっていくことを実感していきました。

彼の教えは時に哲学的であり、実践レベルの言葉が多用される指導であったため、修士論文のテーマとすることなど思いも寄りませんでした。なかなか論文のテーマを決められずにいた私を後押ししてくださったのは、他ならぬ恩師の山本文茂先生です。これまでの歩みを支えてくださった方々の思い出を、この随想をしたためつつ、思い返しています。



新入会員紹介

プライバシーに関わるので削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

赤松 林太郎さん **ピアノリサイタル 2012 [札幌公演]**
日 時：2012年1月20日(金) 19:00 開演
会 場：ザ・ルーテルホール
主 催：札幌クラシック音楽研究会
主要内容：スクリャービン：左手のための前奏曲とノクターン Op.9、ブラームス：4つの小品 Op.119、ヴェチェイ（シフラ&赤松林太郎編曲）：悲しいワルツ、ツェルニー：シューベルトの人気あるワルツによる変奏曲 変イ長調 Op.12、リスト：リゴレット・パラフレーズ、他
料 金：前売一般3,000円 前売 Rin の会会員 2,500円 当日 3,500円

網屋 太郎さん **網屋太郎ヴァイオリンリサイタル—アンサンブル静岡&ジュニア 2012 室内楽シリーズ—**
日 時：2012年2月12日(日) 14:00 開演
会 場：江崎ホール（静岡市葵区七間町）
主要内容：ヘンデル：ヴァイオリンソナタ第4番、クライスラー：ロンディーノ、マスネ：タイスの瞑想曲、カザルス：鳥の歌（チェロ）、バッハ：無伴奏チェロ組曲よりプレリュード、アルマンド、ガボット、サラサーテ：チゴイネルワイゼン、他
出 演：Vn 網屋太郎 Pf 佐藤紗規子 Vc 内田佳宏（ゲスト）
料 金：当日 3000円 前売 2500円 学生 1500円 親子券 3000円(大人1+子ども1)

荒木 善子さん・佐野 仁美さん **日本音楽の午後**
日 時：2012年3月3日(土) 14:30 開演
会 場：サラマンカホール
主要内容：平井康三郎：平城山、九十九里浜、中田喜直：《マチネ・ポエティックによる4つの歌曲》よりさくら横ちょう、髪、宮城道雄：瀬音、菊城正明：木もれび、他

島野 聖章さん **詩と音楽で味わうロマン主義**
日 時：2012年3月10日(土) 18:30 開演
会 場：ミュージック・カフェ・アンジェス（奈良県橿原市新賀町）
主 催：奈良県
企画運営：NPO 法人奈良ユニバーサロン
趣 旨：19世紀前半ヨーロッパの重要な精神運動である「ロマン主義」に迫る。ハイネ、レルシュタープらの詩を朗読、さらにこれらの詩を元に作曲されたメンデルスゾーン、シューベルトの歌曲を全員で実際に歌ってみる。後半は、前半歌った曲の編曲作品を中心とした、ピアノ・コンサート。詩、歌、ピアノと、様々な角度からお楽しみいただけるワークショップ型イベント。
主な曲目：歌の翼に（ハイネ 詩／メンデルスゾーン 曲）、セレナード（レルシュタープ 詩／シューベルト 曲） バラード第4番（ショパン） 他
料 金：1500円(+ order)

- 三村 晶子さん **第10回 Mosso Concert 特別企画 ギオルギ・バブアゼ&村田陸美デュオリサイタル**
 日 時：2012年3月20日(火・祝)
 会 場：アルカスホール・メインホール(京阪電車「寝屋川市駅」下車、徒歩3分)
 趣 旨：地域の皆様に上質な室内楽を低料金で提供し、音楽・楽器・作品の歴史的背
 景や作曲家にも興味を広げていただく。
 主な内容：ソロ演奏とアンサンブル
- 赤松 林太郎さん **ベートーヴェン独奏曲全曲プロジェクト《新・ベートーヴェン解体新書》第2回**
 日 時：2012年3月22日(木) 19:00開演
 会 場：札幌市時計台 ホール
 主 催：札幌クラシック音楽研究会
 主な内容：ベートーヴェン：創作主題による32の変奏曲 ハ短調 WoO.80、ピアノソナ
 タ 第1番 ヘ短調 Op.2-1、ピアノソナタ 第2番 イ長調 Op.2-2、他
 料 金：一般2,000円 高校生以下無料(先着申込順)
 主 管：Office La PARADE
 問 合 せ：officelaparade@m8.gyao.ne.jp
- 赤松 林太郎さん **ピアノリサイタル 2012 [東京公演]～メジャーデビュー5周年記念～**
 日 時：2012年3月30日(金) 19時:00開演
 会 場：すみだトリフォニーホール 小ホール
 主 催：Office La PARADE
 共 催：被災地にピアノを届けるネットワーク
 主な内容：ガーシュイン：三つの前奏曲、ピアソラ(山本京子編曲)：鯨、オブリビオン、
 アディオス・ノニーノ、スクリャービン：左手のための前奏曲とノクターン
 Op.9、リスト：オーベルマンの谷、他
 料 金：前売一般3,500円 前売PTNA会員3,000円 前売Rinの会会員・学生
 2,000円 当日4,000円
 問 合 せ：officelaparade@m8.gyao.ne.jp
- はざま ゆかさん **「剣の舞 ～鍵盤ハーモニカの芸術～」CD発売記念リサイタル**
 日 時：2012年4月18日(水) 19:00開演
 会 場：松本市音楽文化ホール(小ホール)
 主な内容：ハチャトリアン：剣の舞、リムスキー・コルサコフ：くまばちの飛行、ピ
 アソラ：鯨、コルンゴルド：組曲「空騒ぎ」、早坂文雄：うぐいす、クライ
 スラー：愛の喜び、他(ピアノ：吉田桂子)
 料 金：全自由席 2,000円
 問 合 せ：0263-26-4762(ムジカコンパス)
- 赤松 林太郎さん **檀之上美穂ソロコンサート ～薔薇と私とうぐいすと～**
 日 時：2012年5月2日(水) 19:00開演
 会 場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
 主な内容：フォーレ、アーン、ラヴェル、リムスキーコルサコフ、サンサーンス、ドビ
 ュッシー、助川敏弥
 ピ ア ノ：赤松林太郎

奥 忍 さん **巨大二重万華鏡「尖塔」展—視覚・聴覚・身体性の響宴—**
期 間：2012年5月15日（火）～20日（日）
会 場：アートスペース MEISEI（京都・寺町）
趣 旨：巨大万華鏡の中で参加者が発する声、リズムなどに巨大万華鏡の映像が共鳴するインスタレーション。ヴァイオリン・デュエット、声による即興演奏あり。
連 絡 先：奥忍 s-oku@mbox.kyoto-inet.or.jp

小山 和彦 さん **仙台・現音音楽展 VII 佐藤由愛ヴァイオリンリサイタル**
日 時：2012年5月21日（火） 19：00 開演
会 場：仙台市青年文化センター 交流ホール
趣 旨：仙台在住の3名の作曲家の新作と J.S. バッハ、イザイの作品による無伴奏ヴァイオリンによるリサイタル
主な内容：門脇治、小山和彦、佐々木隆二の新作、 J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番、イザイ：無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番
連 絡 先：マネージメント 仙台・杜の響きのコンサート 022-302-3344

三村 晶子さん **第11回 Mosso Concert 清木ナツキ フルトリサイタル**
日 時：2012年7月1日（日）14：00 開演
会 場：星誕音楽堂（大阪府交野市）
趣 旨：地域の幅広い年代の方々に上質な演奏をお楽しみいただき、音楽やその作品の作曲家や時代背景などにも興味を深めていただく企画の第11回。
主な内容：フルート（清木ナツキ）とピアノ（樋上眞生）のコンサート

奥村 治さん **東京ブリュッセルトリオ —日本初公演—**
日時&会場：2012年9月12日（水）19：00 開演 / 横浜みなとみらいホール小ホール
2012年9月16日（日）14：00 開演 / 東京オペラシティリサイタルホール
趣 旨：アルペジオーネとチェロ演奏家のニコラ・デルタイユ氏を迎えての演奏会。奥村さん製作のアルペジオーネでの小品ソロ演奏を含みます。
出 演：ニコラ・デルタイユ（アルペジオーネ、チェロ）、神田望美（フルート）、長浜恵子（ピアノ）
内 容：G. ピエルネ：室内ソナタ Op.48、J.P. ドウルーズ：反映（委嘱作品 世界初演）、C.M.v. ウェーバー：トリオ Op.63、三善晃：フルート、セロとピアノのためのソナタ、N. カプースチン：トリオ Op.86
料 金：一般 3000 円 学生 2000 円
問 合 せ：Tel & Fax 03-3588-0768 piano-oberkampf@hotmail.co.jp

会員による CD リリース

- 野本 立人 さん 野本立人バリトン・リサイタル 花—わたしたちのうた—
曲 目:ベートーヴェン「君を愛す」、ジョルダニー「カロ・ミオ・ベン」、沖縄民謡「て
いんさぐぬ花」、なかにしあかね「うたが生まれる」他
演 奏:笥千佳子 (PF.) 西由起子 (Sop.) 女声アンサンブル桜組
録 音:2011年9月
発 売 元:アーティスト・ギルド・トウキョウ

会員による新刊

- 新山 眞弓 さん 『展覧会の絵』エレクトーンのための編曲
発行年月:2011年11月
出 版 社:マザーアース株式会社
定 価:定価 3,150 円 (本体 3,000 円)
- 後藤 丹 さん 『おいしいピアノレシピフルコース～まるやか名曲クラシック』
趣 旨:作り方で差が出る料理。曲をどう演奏するかについても「どのように取り組
むか」によって、仕上がりは全く異なる。全ては料理人＝演奏者の腕にかか
っている。「レシピ」仕立てで演奏のポイントを挙げておいしい1曲を作り
上げるお手伝いをします。
収 録 曲:「パッヘルベルのカノン」「ノクターン第2番」「乙女の祈り」「こいぬのワルツ」
「エリーゼのために」「ソナタ＜悲愴＞第2楽章」「亡き王女のためのパヴァ
ーヌ」「月の光」
発行年月:2012年2月
出 版 社:全音楽譜出版社、ISBN978-4-11-190016-9
定 価:本体 1,500 円+税
- 後藤 丹 さん 『おいしいピアノレシピフルコース～とろける名曲クラシック』
収 録 曲:「愛の挨拶」「花の歌」「愛の夢第3番」「ジムノペディ第1番」「幻想即興曲」「亜
麻色の髪のエ乙女」「夢想」「トロイメライ」
発行年月:2012年2月
出 版 社:全音楽譜出版社、ISBN978-4-11-190017-6
定 価:本体 1,500 円+税

『音楽表現学』 Vol.10 原稿募集

学会誌編集委員長 伊野義博

『音楽表現学』 Vol.10 の投稿〆切は 2012 年 5 月 31 日（木）です。執筆要領や投稿の方法については『音楽表現学』 Vol.9 の巻末、または学会 HP の「投稿規程」をご覧ください。なお、投稿時点では 2 段組でなく、1 段組でご応募ください。HP には「引用文献の記載方法」等も例示しています。

設立 10 周年記念新事業

「研究サロン」アイデア募集中

ニューズレター 2011-No.2 でお知らせした通り、創立 10 周年を記念して「研究サロン」（仮称）制度を立ち上げます。その趣旨は、これまでよりさらに学会員の研究を支援すべく学会員がそれぞれ関心のあるテーマやトピックス別に集まり、情報交換を行うことによって、最終的には研究論文として発表できるような「場」を学会内に設置しようというものです。

テーマやトピックスとしてはたとえば「発声と音楽表現」「楽器と音楽表現」「作曲技法と音楽表現」「身体と音楽表現」「音楽表現と社会」等、様々な角度からの関心が考えられます。サロンで持ち寄られ

たテーマやトピックスが大会で共同研究として発表でき、やがては論文執筆につながることを願って企画しています。

学会では、これまでも懇親会で話が盛り上がり、共同研究にまで発展した例があります。興味や関心をお持ちのトピックスがありましたら、どうぞご遠慮なくお申し出下さい。学会の新しい風を吹かそうではありませんか。新鮮でワクワクするようなアイデアを事務局宛にどしどしお寄せください。〆切は 5 月 10 日（木）です。みなさまの声をお待ちしています。（理事会）

日本学術振興会「育志賞」の推薦について

日本学術振興会から平成 24 年度「育志賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の 3 つの条件に合致する会員は推薦を検討しますので、事務局までお申し出下さい。

- 1) 対象者の条件・本年 4 月 1 日現在 34 歳未満
 - ・博士課程在学中
 - ・日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』に論文が掲載されていること。

- 2) 申し出の〆切 2012 年 4 月 30 日

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を 1 名選出します。候補者として選ばれた方は育志賞の受付期間（6 月 13 日～15 日）までに書類を準備していただくことになります。ご質問等がありましたらご遠慮なく事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp までご連絡下さい。（理事会）

書籍等青空市場

子ども用のヴァイオリンは、サイズの合ったものが必要になります。子どもの成長につれて、大きい子が使っていた楽器を譲り受け、これまで使っていた楽器を小さい子に譲る、というような流通のサイクルがあります。本当に必要な物を本当に必要とする人が使用できるシステム、物流は現代社会のキーワードの一つです。そこで分数ヴァイオリンの流通システムを学会に応用することを考えました。学会の青空市場で、自宅に眠る音楽関係書籍、AV資料を会員の間で回転させてはどうか、というアイデアです。

また、このアイデアに東日本大震災の支援を絡めたいと考えます。本学会は、2011-No.1のニューズレターに記載したように、被災した会員についての支援制度を設けていますが、さらに一つ、青空市場の売上金を東日本大震災への復興支援として寄付をしたいと考えた次第です。

初回はまず、理事から出品します。物品の詳細や送付等については出店者自身が説明いたします。以下の書籍等をご希望される方は、どうぞ直接に出店者にご連絡下さい。また、青空市場はニューズレター上に開設しますので、このアイデアに協賛される会員の方には、どうぞ次回の青空市場に向けて物品のご協力をよろしくお願いいたします。

<p>書名：『音楽教育におけるリサーチの進め方』 著者：E. レインボウ、H. フローリッヒ 翻訳：谷口雄資、森田恭子 出版年：1994 出版社：音楽之友社（定価 4,500 円） 頒布価格：1,000 円（送料込） 出店者名：谷口雄資 ポイント：研究として成立するためには、何をどのように解き進めなければならないのかを、具体例を示しながら分かり易く解説しています。これから研究を始める方、論文指導を担当される方に読んでいただきたい本です。 連絡先：Fax：0467-46-3038 E-mail: yutang@nifty.com（谷口）</p>	<p>書名："Music Education in Japan" 著者：OKU, Shinobu 出版年：1994 出版社：NEIRAKU ARTS STUDIES CENTRE ISBN4-931390-21-5 頒布価格：500 円（送料込） 出店者名：奥 忍 ポイント：1980 年代の日本の学校教育について、易しい英語で紹介しています。外国の音楽教育関係者が日本の音楽教育の概要を把握することを目的として書かれましたが、日本では、読みやすいので、教育学部の外書講読の導入本としても用いられました。 連絡先：E-mail: s-oku@mbox.kyoto-inet.or.jp（奥）</p>
--	---

<p>書名：『音楽とコミュニケーション』 著者：吉永 誠吾 出版年：2006 年 出版社：熊本日日新聞情報文化センター／敷島印刷 頒布価格：2,000 円（送料込） 出店者名：吉永 誠吾 ポイント：感情と脳内神経伝達物質の働きを明らかにしたうえで、音楽を感情のコミュニケーションツールとして位置づけ、音楽教育の理論と方法を述べた。</p>	<p>CDタイトル：『癒しのためのヴァイオリン名曲集』 演奏者：吉永 誠吾 録音：2008 年 発売元：U2 Classical Recording 頒布価格：3,000 円（送料込） 出店者名：吉永 誠吾 ポイント：アヴェ・マリア（バッハ＝グノー）、白鳥（サン＝サーンス）、タイースの瞑想曲、（マスネー）、ガボット（ゴセック）、愛のあいさつ（エルガー）など、親しみやす>い小品を集めた二枚組のCD</p>
<p>連絡先：〒 860-8555 熊本市黒髪 2-40-1 熊本大学教育学部音楽科 E-mail: yoshinag@gpo.kumamoto-u.ac.jp Tel. 080-2720-8747（吉永）</p>	

事務局からの重要なお願い

1) 年会費の納入について

- ・学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、会則第8条(2)にもとづき、会費を連続3年間未納の場合には会員を「除名」となりますのでご注意ください。
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」が掲載されています。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。本名と通称など複数のお名前をお持ちの方は、振替票通信欄に必ず両方のお名前をご記入ください。また、無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、

振替票右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモを記載の上、保存くださることをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めでの領収書発行はいたしておりません。

2) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届け下さい!

事務局からさまざまなお知らせをメール配信しておりますが、リターン・メールがつかねに何通かあります。また、機関誌『音楽表現学』等の重要書類が返送されることもあります。メールアドレス、連絡先ご住所、ご所属等を変更された場合には、必ず事務局までお届けください。

事務局からのお知らせ

1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援(申請については後述)のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVDリリース：会員による刊行物等の紹介を行います。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・コンサートの後援とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援」します。学会ウェブ・サイトの様式でお寄せください。

3) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料

Vol.4～Vol.9は1部3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.9は1部3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

2) 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

【重要】

学会 URL アドレスの変更

これまで日本音楽表現学会のウェブページは国立情報学研究所の情報発信支援サービスを利用しておりましたが、2012年3月末をもってこのサービスが終了することになりました。それに伴い、当学会のウェブサイトのURLを下記に変更しましたのでお知らせいたします。なお、現在は移行期間として、旧来のURLでも新URLでも利用可能になっております。

新URL <http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

これを機に、ウェブページによる情報発信の更なる改善を目指して運営していきたいと考えています。どうぞこれまで以上にご利用下さい。

(総務担当理事：北山 敦康)

【各種書式】

1) 「入会申込書」

入 会 申 込 書 日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日 氏 名 (ふりがな) : 専門分野 : 所 属 : 自宅住所 : 〒 連絡先 : (上記と異なる場合) 〒 連絡先 Tel. : e-mail : 推薦者名 (学会員・1名) 音楽表現学会に期待されること。ご意見等 :	[備考] <ul style="list-style-type: none">・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。・入会申込書はHPからもダウンロードできます。・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
---	--

2) 「後援願」書式 上記 URL のテンプレートをご利用下さい。

3) その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

2011 年度役員	編集後記
会長：奥 忍 理事：安藤 政輝 北山 敦康 杉江 淑子 谷口 雄資 土門 裕之 吉永 誠吾 編集委員会： 安藤 珠希 伊野 義博 小野 亮祐 河本 洋一 菅 道子 木下 千代 選挙管理委員会： 坂東 肇 中 磯子 井上 朋子 監事：長岡 功 海津 幸子 会長諮問会議： 草下 實 佐々木 正利 中村 隆夫 安田 香 参事：小森 光紗 近藤 晶子 畠 晴子 似内 裕美子 松井 萌	年度末の3月31日、朝から雨の降る中、京都市北文化会館の会議室で理事会が開催されました。2011年度の総括をするとともに、Blue Valley 大会をはじめとする2012年度の計画や学会の将来計画について和やかな雰囲気での熱心な話し合いが行われました。理事会メンバーの頭の中は早くも緑眩しい甲府の地へ、そして熱気あふれる大会会場へと飛んでいました。理事会が終わった夕刻前には雨も上がり、爽やかな風が吹いていました。6月に山梨大学甲府キャンパスで皆様と再会できるのを一同楽しみにしております。 (北山敦康)